

接続に制限がある場所でのビジネス運用の維持

ネットワークのエッジにコンピュートリソースを配置することで、新規または既存のワークロードの運用効率を向上させ、収益を生み出す新たな機会を捉えることができます。

しかし、ネットワーク接続が断続的な場合、エッジロケーションの管理は困難になります。大規模に運用する場合、物理的なネットワークはより複雑で分散されており、管理および保護すべきデバイスの数も増えます。またそのすべてがメインのデータセンターの外にあり、接続性の信頼性が低い遠隔地にあることも多々あります。

Red Hat の組み込みエッジ・ソリューションは、接続に制限がある条件下でも重要なビジネス運用を維持するために必要な柔軟性、可用性、パフォーマンスを提供します。このチェックリストでは、Red Hat のエッジ機能によりネットワークのエッジでビジネス継続性を維持するための 4 つの方法をご紹介します。

1 パフォーマンスを最大化するための強固な基盤を構築

接続性に制限のある遠隔地では、使用または転送されるあらゆるデータが重要となるため、ビジネス運用を継続し最大化するためには強固な基盤を構築することが重要になります。

Red Hat® ソリューションにより次のことが可能になります。

- ▶ **Red Hat Enterprise Linux®** でエッジでの接続の最適化に適した運用環境を構築します。
- ▶ **Red Hat OpenShift® Data Foundation** でデータをエッジロケーションで保存および処理し、リアルタイムの意思決定をサポートします。
- ▶ データセンターとの往復を必要とすることなく遠隔地のデータを処理します。
- ▶ 帯域幅の使用量が少ない、効率的な OTA 更新をインストールします。これは接続が限定的または断続的な遠隔地に最適です。

2 エッジデバイスの運用の一貫性を維持

接続が不安定だとエッジデバイスは計画外のダウンタイムに対して脆弱になります。業務が中断され、必要なデータ、収益、顧客からの信用、信頼性が失われることになります。

Red Hat のエッジ・ソリューションにより、次のことが可能になります。

- ▶ **Red Hat Device Edge** と Red Hat Enterprise Linux を介した差分アップデートでアップタイムを維持します。
- ▶ **ヘルスチェックを導入**して競合を検出し、オペレーティングシステム (OS) のアップデートを自動的に元に戻してダウンタイムを短縮します。
- ▶ **Red Hat Package Manager-OSTree** を使用して、低帯域幅、高レイテンシー、断続的な接続性を克服します。

3 自動化によって複雑さを軽減

エッジロケーションで接続性の問題が発生すると、発生した問題の解決や、手動プロセスだけによる制御の維持が非常に困難になります。

主要なプロセスを自動化することで、IT スタッフは常に手動で調整することなくリモートでデバイスを管理および制御し、重要なデータを監視してネットワークの制限を管理することができます。

Red Hat のエッジ・ソリューションにより、次のことが可能になります。

- ▶ **Red Hat Ansible® Automation Platform** を使用して、先進的な IT インフラストラクチャの構築と運用のためのエンタープライズ・フレームワークをエッジコンピューティングの配置場所に拡張します。
- ▶ **Event-Driven Ansible** を使用して、環境の変化に自動的に対応し、パフォーマンスの問題を軽減します。
- ▶ エッジロケーションの近くで自動化を実行することで、高レイテンシーに対する回復力を高め、接続の中断を軽減します。
- ▶ **automation mesh** により、ローカルおよびリモートの自動化ワークロードの容量をスケーリングし、自動化ボリュームの需要に対応します。

4 セルフサービス機能でアジリティを強化

ネットワークのエッジロケーションは遠隔地にあることが多く、アクセスが難しいため、IT プロフェッショナルが現場に介入することが困難になります。

Red Hat のエッジ・ソリューションはセルフサービス機能を備えており、IT チームによる介入に頼ることなく、リソースの提供を高速化し、接続性の低いリモートロケーションでも手動制御を維持することができます。

Red Hat のエッジ・ソリューションにより、以下のことが可能になります。

- ▶ **Ansible Automation Platform** により**プロビジョニングの自動化**をデプロイし、リモートロケーションでのインフラストラクチャの設定およびスケーリングの複雑性を軽減します。
- ▶ Red Hat OpenShift が提供する **Advanced Cluster Management for Kubernetes** などのセルフサービスツールを使用して、**エッジロケーションでコンテナ化されたマイクロサービス**を作成および管理します。
- ▶ エッジロケーションで現地のデータを収集および処理し、Red Hat Application Foundations がエッジ向けに提供する**セルフサービスツールとソリューション**でアプリケーションを制御します。

詳細はこちら

Red Hat の**エッジ・ソリューション・ポートフォリオ**により、ネットワークのエッジにあるデバイスでも、データセンターと同じエンタープライズ・オープンソース・プラットフォームを構築できるをご覧ください。



Red Hat について

Red Hat は、**受賞歴のある**サポート、トレーニング、コンサルティングサービスをお客様に提供し、複数の環境にわたる標準化、クラウドネイティブ・アプリケーションの開発、複雑な環境の統合、自動化、セキュリティ保護、運用管理を支援します。

アジア太平洋

+65 6490 4200
apac@redhat.com

オーストラリア

1800 733 428

インド

+91 22 3987 8888

インドネシア

001 803 440 224

日本

03 4590 7472

韓国

080 708 0880

マレーシア

1800 812 678

ニュージーランド

0800 450 503

シンガポール

800 448 1430

中国

800 810 2100

香港

800 901 222

台湾

0800 666 052

f fb.com/RedHatJapan
 t twitter.com/RedHatJapan
 in linkedin.com/company/red-hat

jp.redhat.com
 #670500_0124

Copyright© 2024 Red Hat, Inc. Red Hat, OpenShift, Ansible、および Red Hat ロゴは、米国およびその他の国における Red Hat, Inc. またはその子会社の商標または登録商標です。Linux® は、米国およびその他の国における Linus Torvalds 氏の登録商標です。